

ステージ形式比較表

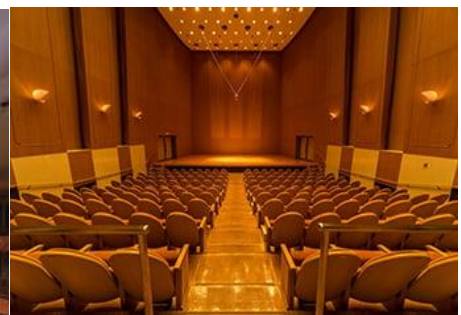
	プロセニウム形式	アリーナ形式	オープン形式(エンドステージ形式)
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台を額縁のように切り取るプロセニウムアーチが設置されている。 ・緞帳などの舞台幕が多用され、舞台と観客席がこれらの境界によってはっきり分けられる。オペラやミュージカルではメリットになり得るが、演劇やコンサートにおいては分断された感じがあり、距離感を感じることもある。 ・現ホールの形式。多目的ホールであることから、最適ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・円形劇場に代表されるような、舞台の四周囲を客席がぐるりと取り囲む形式。 ・ひとつの空間にすっぽりと納まったような一体感が感じられる。 ・あらゆる角度から観劇されるため、大掛かりな舞台装置はセットできず、限られた演出の下でのみ使われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長方形の空間の一边を舞台にし、その向かい側に客席を設けた形式。 ・額縁構造や舞台幕が存在しないので客席との一体感が保たれる。 ・プラッツ習志野の形式 ・1つの空間に舞台と客席が納まっている上、舞台を壁で囲むことができるので、音響効果を良くしやすい形式と言える。



△習志野文化ホール（プロセニウム形式）



△Aホール（アリーナ形式）



△Bホール（エンドステージ形式）



△アリーナ形式のホールを幕でプロセニウムアーチを造っている例



△プラッツ習志野市民ホール（エンドステージ形式）